

## 司法修習生採用選考審査基準

平成28年6月1日 最高裁判所

司法修習生の採用選考における審査基準を下記のとおりとする。

### 記

- 1 次に掲げる者から司法修習生採用選考の申込みがあった場合には、2に該当するときを除き、司法修習生として採用する。
  - (1) 司法試験法（昭和24年法律第140号）による司法試験に合格した者
  - (2) 司法試験法及び裁判所法の一部を改正する法律（平成14年法律第138号。以下「改正法」という。）による改正前の司法試験法の規定による司法試験の第二次試験又は改正法附則第7条第1項の規定により行われる司法試験の第二次試験に合格した者
  - (3) 高等試験令（昭和4年勅令第15号）による高等試験司法科試験に合格した者
  - (4) 司法官試補及弁護士試補タル資格ノ特例ニ関スル法律（昭和20年法律第28号）に規定する銓衡委員会の銓衡を経た者
- 2 司法修習生採用選考申込者に次に掲げる事由があると認めるとときは、これを不採用とする。
  - (1) 次のいずれかに該当すること。
    - ア 禁錮以上の刑に処せられた者
    - イ 成年被後見人又は被保佐人
    - ウ 民法の一部を改正する法律（平成11年法律第149号）附則第3条第2項の規定により被保佐人とみなされる準禁治産者以外の準禁治産者
    - エ 破産者で復権を得ない者
    - オ 品位を辱める行状その他の理由により修習をすることが不相当である者
    - カ 病気その他の理由により修習をすることが困難である者
  - (2) 司法修習生であった者が、次のいずれかに該当すること。

- ア 修習態度の著しい不良その他の理由により修習をすることが不相当である者
  - イ 成績不良（裁判所法（昭和22年法律第59号）第67条第1項の試験の不合格を除く。）その他の理由により修習をすることが困難である者
  - ウ 裁判所法第67条第1項の試験に連続して3回合格しなかった者（再度司法試験法による司法試験に合格した者を除く。）。ただし、病気その他やむを得ないと認められる事情により、裁判所法第67条第1項の試験の全部又は一部を受験することができなかった場合には、当該試験については、受験回数として数えないものとすることができる。
- (3) 司法修習生採用選考要項において定める手続を遵守しなかったこと。